

e-株主リサーチ 個人投資家モニターアンケート

**個人投資家にも「ESG」「SDGs」が浸透し、重要度を増している。
株主通信の読まれ方はさまざま、読まれ方を考えたコンテンツ作りが必要。**

IRコミュニケーション支援の株式会社 a2media (<https://www.a2media.co.jp/>) は、個人投資家と上場企業を繋ぐコミュニケーションツールであるe-株主リサーチを使い、2020年1月17日～1月27日にかけて、企業IRに関して意識調査を実施しました。
アンケートの概要、結果ダイジェストは以下の通りです。

■ ESGの認知度は引き続き上昇し、約半数の人が認知している。ESGの認知度の高い層ほど、「ESG投資は、今後、株式投資において重要な潮流になる」と考えている。

ESGについて、e-株主モニターにおける認知度は「言葉もどういう内容のものかもよく知っている。」「言葉はよく聞き、内容もある程度知っている。」の回答を合わせて46.5%となり、昨年調査に比べて13.7ポイントの大幅な上昇となった。他方、「言葉をはじめ聞いて聞いた。」の回答は19.9%と、昨年調査に比べ13.6ポイントの大幅な減少となった。比較的株式投資歴の長い個人投資家が登録しているe-株主モニターにおいて、ESGという概念の浸透度は着実に高まっている。(PDF 2枚目にグラフ)

ESG投資が今後、株式投資において重要な潮流になると思うかどうか尋ねたところ、「ESG投資は、今後、株式投資において重要な潮流になると思うので注目している。」の回答が19.2%である一方、「ESG投資の考え方は理解しているが、浸透するかどうか見極めたいと思う。」は38.0%となり、全体としてはESG投資には慎重な見方をしているが、認知度で「言葉もどういう内容のものかもよく知っている。」と回答した層は、55.7%が「ESG投資は、今後、株式投資において重要な潮流になると思うので注目している。」と回答しており、認知度の高い層ほどESG投資が重要な潮流になると考えている。(PDF 3枚目、4枚目にグラフ)

■ SDGsの認知度は約4割。企業がサステナビリティに取り組む枠組みとして一定の理解が得られており、認知度が高い層ほどSDGsが投資判断において重要と考えている。

SDGsについても今回初めて尋ねた。「言葉もどういう内容のものかもよく知っている。」「言葉はよく聞き、内容もある程度知っている。」の回答を合わせて41.5%となり、一定水準まで浸透していることがわかった。(PDF 5枚目にグラフ)

企業のSDGsへの取り組みが投資判断において重要かどうか尋ねたところ、「SDGsは、企業の持続可能な成長(サステナビリティ)への取り組みにとって必要な枠組みであり、投資判断において重要であると考えている。」の回答が全体では24.1%であったが、認知度で「言葉もどういう内容のものかもよく知っている。」と回答した層に限ると61.8%になり、認知度の高い層ほどSDGsは企業がサステナビリティに取り組む枠組みであり投資判断において重要と考えていることがわかる。(PDF 6枚目、7枚目にグラフ)

■ 株主通信の読み方はさまざま。伝えたい読者層、伝えたい情報を選ぶことが必要。

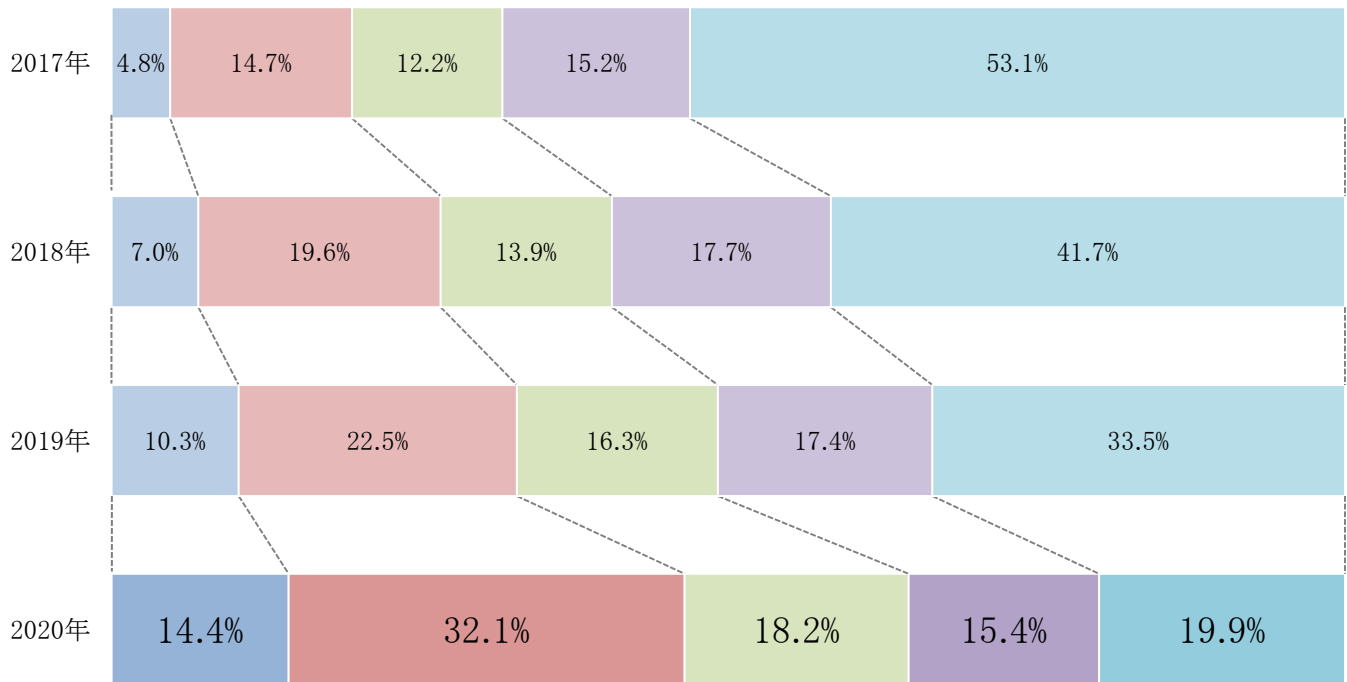
株主通信の読み方を尋ねたところ、「必ず全ページ目を通す。」が32.5%、「興味のあるページだけ読む」が46.3%、「ざっと眺める程度。」が20.6%となった。(PDF 8枚目にグラフ) 読者の読み方を考え、伝えたい読者層や伝えたい情報を選び、コンテンツを作っていくことが求められる。(PDF 9枚目にグラフ)

以上

【E S Gの認知度】

「E S G」という言葉と内容を知っていますか。選択肢からもっとも近いものを1つお選びください。

- 言葉もどういう内容のものかもよく知っている。
- 言葉はよく聞き、内容もある程度知っている。
- 言葉はよく聞かすが、内容はあまり知らない。
- 言葉は聞いたことがあるが、ぴんと来ない。
- 言葉をはじめて聞いた。



「言葉もどういう内容のものかもよく知っている。」「言葉はよく聞き、内容もある程度知っている。」とあわせて46.5%となり、昨年調査より13.7ポイントの大幅増加となる一方、「言葉をはじめて聞いた。」は19.9%と昨年調査より13.6ポイントの大幅減少となった。

個人投資家に対するE S G投資という言葉や概念の浸透はテンポが上がってきており、個人投資家にもE S Gについての具体的な取り組みを発信するステージに進むと思われる。

【E S G投資の関心度】

企業の持続可能な成長（サステナビリティ）という考え方が広まる中で、「E S G： Environment（環境）、Social（社会）、Governance（ガバナンス）」といった非財務情報を重視して長期的なリターンを求める「E S G投資」という考え方が最近注目されてきています。こうした考え方に興味はありますか。選択肢からもっとも近いものを1つお選びください。

- E S G投資は、今後、株式投資において重要な潮流になると思うので注目している。
- E S G投資の考え方は理解しているが、浸透するかどうが見極めたいと思う。
- E S G投資についてあまり知らなかったが、興味があるので情報を集めてみたいと思う。
- E S G投資について興味がわからないので、特に知りたいとは思わない。／言葉をはじめて聞いたのでよくわからない。

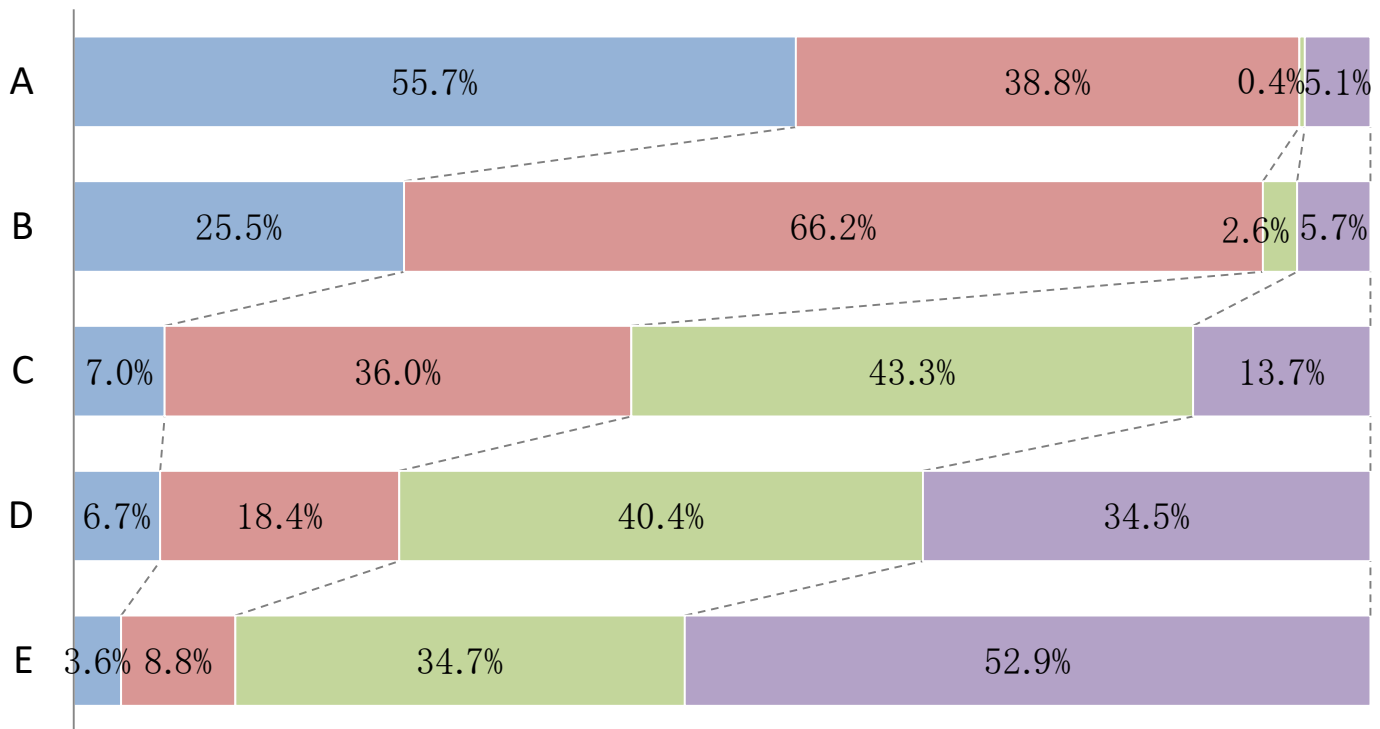


選択肢文でE S G投資の考え方について簡単に説明したうえで、今後、株式投資において重要な潮流になるかどうか尋ねた。

「E S G投資は、今後、株式投資において重要な潮流になると思うので注目している。」と積極的な回答を選んだ人は19.2%と約2割に達する一方、「E S G投資の考え方は理解しているが、浸透するかどうが見極めたいと思う。」と慎重な回答を選んだ人は約2倍の38.0%となった。

E S G投資への認知・理解は進みつつも、それが株式投資にあたっての積極的なファクターになるかどうかは、全体としてはまだ慎重に見極めている段階にあると考えられる。

【ESGの認知度とESG投資の関心度の関係性について】



【ESG】言葉の認知度についての回答

言葉もどういう内容のものかもよく知っている。	A
言葉はよく聞き、内容もある程度知っている。	B
言葉はよく聞けるが、内容はあまり知らない。	C
言葉は聞いたことがあるが、ぴんと来ない。	D
言葉をはじめて聞いた。	E

【ESG】株式投資における概念に対する関心度

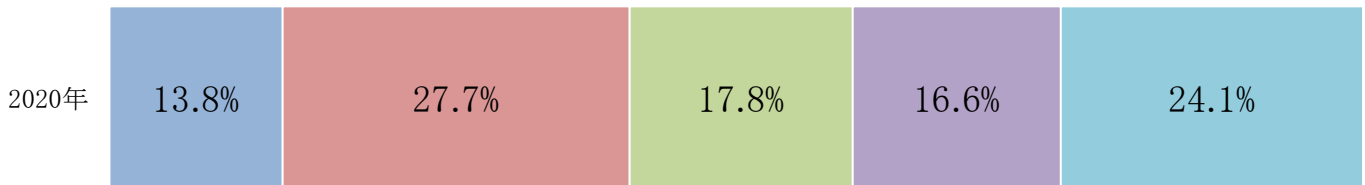
ESG投資は、今後、株式投資において重要な潮流になると思うので注目している。	Blue
ESG投資の考え方は理解しているが、浸透するかどうか見極めたいと思う。	Red
ESG投資についてあまり知らなかったが、興味があるので情報を集めてみたいと思う。	Green
ESG投資について興味がわからないので、特に知りたいとは思わない。／言葉をはじめて聞いたのでよくわからない。	Purple

ESGについて言葉の認知度に比例して「ESG投資は、今後、株式投資において重要な潮流になると思うので注目している。」とESG投資に対して積極的な回答をする割合が高まっている。ESGへの認知度の高さとESG投資の関心度の高さは相関している様子が見て取ることができる。

【SDGsの認知度】

「SDGs」という言葉と内容を知っていますか。選択肢からもっとも近いものを1つお選びください。

- 言葉もどういう内容のものかもよく知っている。
- 言葉はよく聞き、内容もある程度知っている。
- 言葉はよく聞くが、内容はあまり知らない。
- 言葉は聞いたことがあるが、ぴんと来ない。
- 言葉をはじめて聞いた。

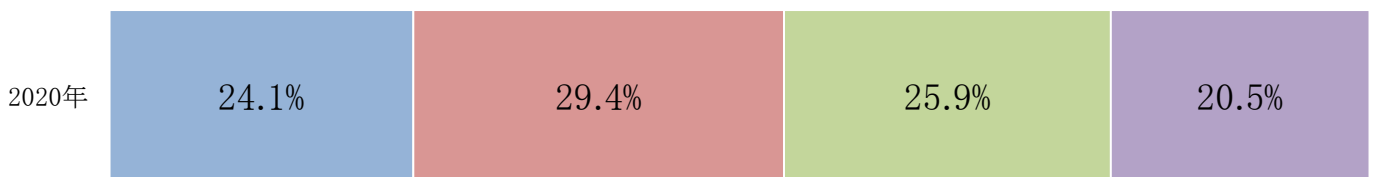


「言葉もどういう内容のものかもよく知っている。」「言葉はよく聞き、内容もある程度知っている。」とあわせて41.5%となり、SDGsという概念は一定程度浸透している。ESGと同様、SDGsについても個人投資家に対して具体的な取り組みを発信するステージに進むと思われる。

【SDGsの関心度】

企業の持続可能な成長（サステナビリティ）に取り組む枠組みとして、2015年に国連で決議された「SDGs」（エス・ディー・ジーズ / Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標）を取り入れ、経営課題とする企業が増えてきています。投資判断を行うにあたって、こうした取り組みに対して興味はありますか。選択肢からもっとも近いものを1つお選びください。

- SDGsは、企業の持続可能な成長（サステナビリティ）への取り組みにとって必要な枠組みであり、投資判断において重要であると考えている。
- SDGsは、企業の持続可能な成長（サステナビリティ）への取り組みの枠組みであることは理解しているが、投資判断において重要とは考えていない。
- SDGsについてあまり知らないが、興味があるので情報を集めてみたいと思う。
- SDGsについて興味がわからないので、特に知りたいとは思わない。／言葉をはじめて聞いたのでよくわからない。

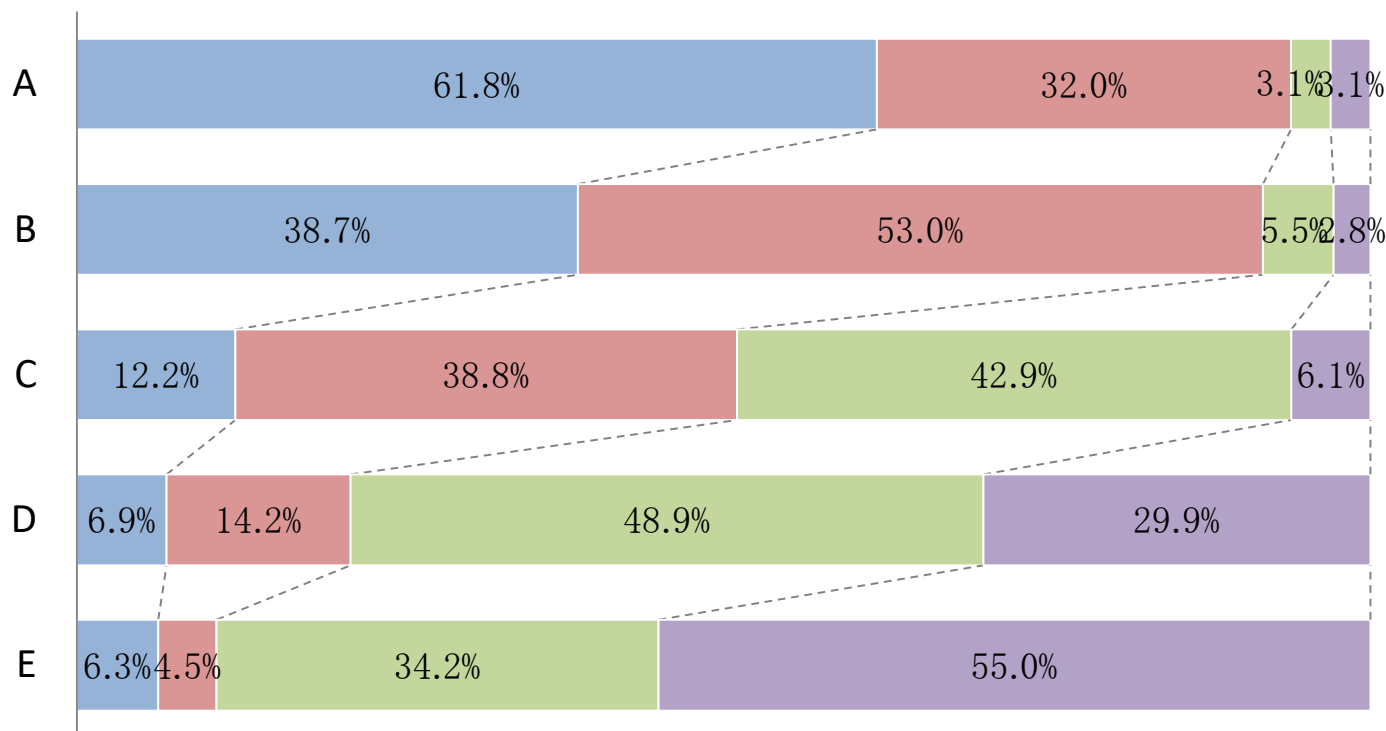


選択肢文でSDGsの考え方について簡単に説明したうえで、投資判断に影響する取り組みであるかどうかを尋ねた。

「SDGsは、企業の持続可能な成長（サステナビリティ）への取り組みにとって必要な枠組みであり、投資判断において重要であると考えている。」という積極的な回答を選んだ人は24.1%とほぼ4分の1を占める一方、「SDGsは、企業の持続可能な成長（サステナビリティ）への取り組みの枠組みであることは理解しているが、投資判断において重要とは考えていない。」と慎重な回答を選んだ人は29.4%を占め、判断が分かれている。

SDGsへの取り組みが企業の持続可能な成長（サステナビリティ）にとって必要であることの理解はある程度進んでいるが、それを投資判断にまで結び付ける具体的なイメージをもつところまではまだ十分ではないため、今後、個人株主・個人投資家に向けて、SDGsへの取り組みを、IRとしてわかりやすく発信することが求められると思われる。

【SDGsの認知度とSDGの関心度の関係性について】



【SDGs】言葉の認知度についての回答

言葉もどういう内容のものかもよく知っている。	A
言葉はよく聞き、内容もある程度知っている。	B
言葉はよく聞かすが、内容はあまり知らない。	C
言葉は聞いたことがあるが、ぴんと来ない。	D
言葉をはじめて聞いた。	E

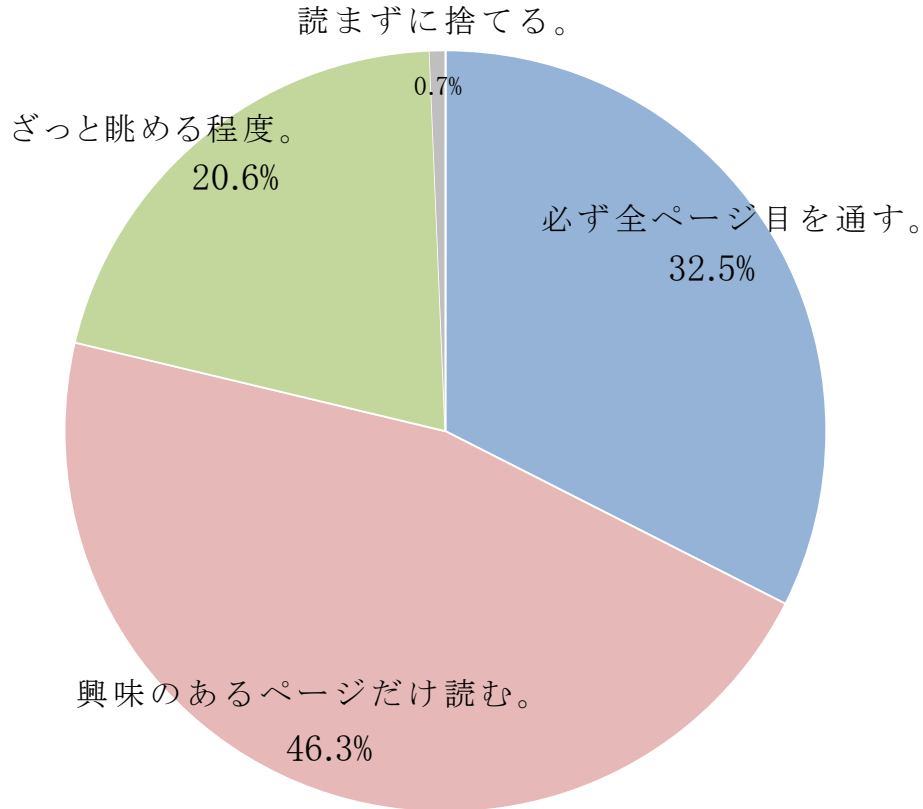
【SDGs】企業の持続可能な成長(サステナビリティ)への取り組みに対する関心度

SDGsは、企業の持続可能な成長(サステナビリティ)への取り組みにとって必要な枠組みであり投資判断において重要であると考えている。	Blue
SDGsは、企業の持続可能な成長(サステナビリティ)への取り組みの枠組みであることは理解しているが、投資判断において重要とは考えていない。	Red
SDGsについてあまり知らないが、興味があるので情報を集めてみたいと思う。	Green
SDGsについて興味がわからないので、特に知りたいとは思わない。/言葉をはじめて聞いたのでよくわからない。	Purple

SDGsについて言葉の認知度に比例して「SDGsは、企業の持続可能な成長(サステナビリティ)への取り組みにとって必要な枠組みであり投資判断において重要であると考えている。」と企業の持続的な成長への取り組みに対して積極的な回答をする割合が高まる。SDGsへの認知度の高さや企業の持続的な成長への取り組みに対する関心の高さは相関している。

【株主通信について】

企業から郵送される株主向け報告書（株主通信）について、目を通されますか。

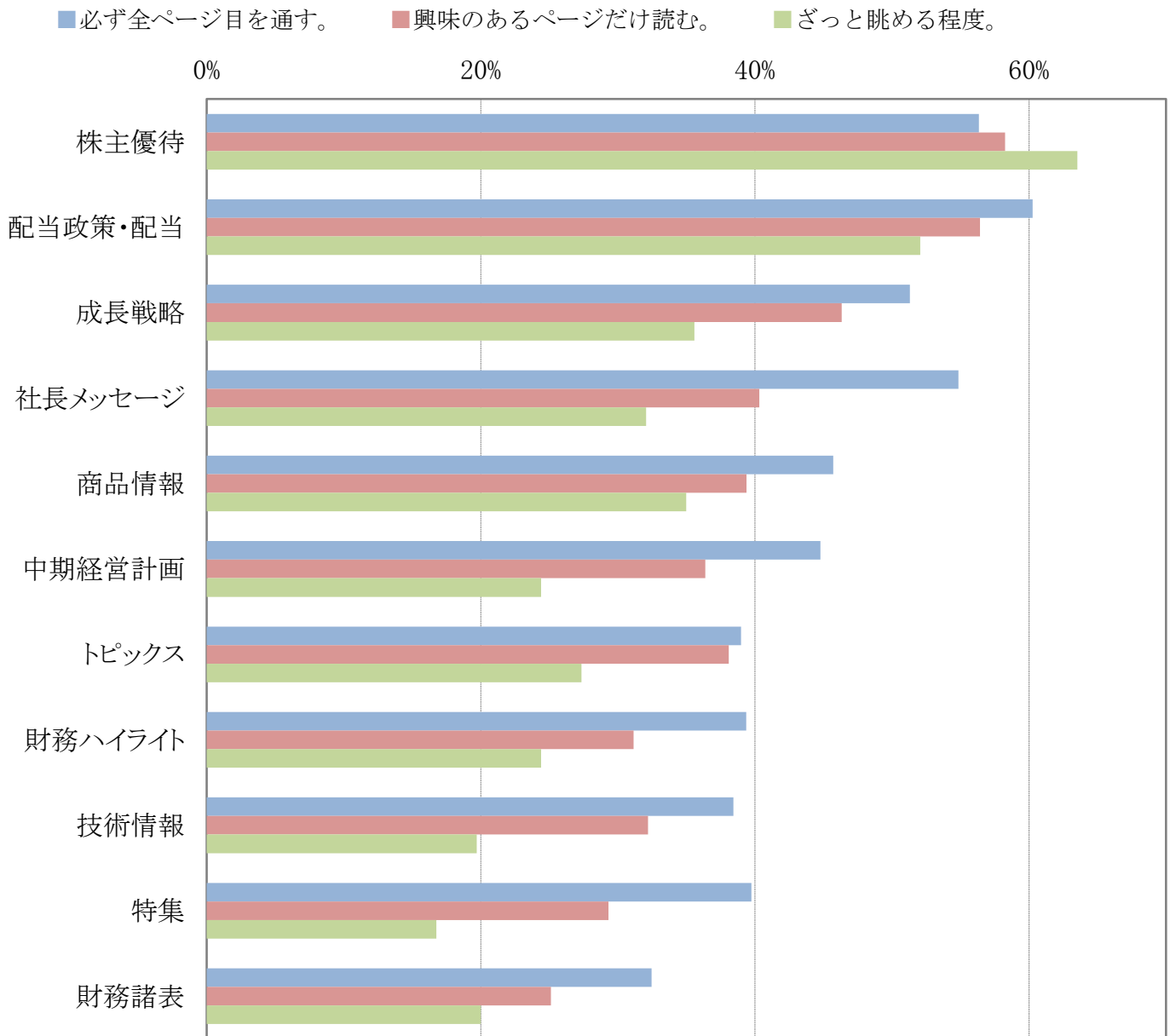


「必ず全ページ目を通す。」が32.5%、「興味のあるページだけ読む。」が46.3%、「ざっと眺める程度。」が20.6%となっている。

株主通信の読み方は一様ではなく、丹念に読み込む人もいれば、ざっと眺める人もいることがわかる。

【株主通信でよく読むコンテンツについて】

株主向け報告書（株主通信）で、よく読むコンテンツをお聞かせください。
（いくつでも）



株主通信を「必ず全ページ目を通す。」と回答した人は「株主優待」を除くすべてのコンテンツについて、ほかの読み方をする人より読んでいることがわかる。とりわけ「成長戦略」「社長メッセージ」「中期経営計画」といった、読んだり理解したりするのに労力があるものでもよく読んでいる様子がうかがえる。伝えたい読者層を設定して、伝える情報を選び、コンテンツを作っていくことが求められる。

<調査概要>

調査方法：インターネットを利用したアンケートリサーチ
 調査対象者：(株) a2mediaのe-株主リサーチモニター会員
 調査期間：2020年1月17日～2020年1月27日
 集計回答人数：1,651人
 調査項目：
 [属性]性別、年齢、職業、居住地域、投資資金、投資目的
 [調査項目]株主通信、ESG投資、SDGs、IRイベントの運営 ほか

全体	全体				
	1,651				
性別	男性		女性		
	1,363		288		
年齢	30代以下	40代	50代	60代	70代以上
	224	424	433	375	195

<e-株主リサーチモニター属性>

母集団属性 (2020年3月3日現在)

- 性別/男性78%、女性22%
- 年代/29歳以下1%、30代8%、40代26%、50代26%、60代20%、70歳以上19%
- 職業/会社員46%、会社役員6%、公務員・非営利団体職員11%、自営業14%、パート・アルバイト・フリーター3%、専業主婦12%、学生1%、無職・定年退職7%、その他1%

<e-株主リサーチについて>

(株) a2mediaが実施する個人株主・投資家を対象としたインターネット調査。3つのサービスを提供しています。

1. e-株主リサーチ

上場会社が主に本決算・第2四半期(中間)決算期に、個人株主向けに配布する株主通信内にてアンケート告知を行い、インターネットサイトに誘導し回答するシステム(携帯電話でも回答可能)です。

IR担当者はリアルタイムで回答状況を把握できるだけでなく、同時期に実施している他社の結果と比較しながら自社結果を閲覧することができます。従来までのはがきを利用した株主向けのアンケートに比べ、劇的なスピードアップとコストダウンを実現します。

2. e-株主リサーチモニターアンケート

e-株主リサーチ回答者に対してモニター会員の登録案内を行い、現在約22,000名(2019年3月6日現在)が登録しております。時事問題やトレンドをテーマに、個人投資家モニターの考え方や意見について定期的に調査を実施中。

個人株主の実態や企業のIR活動への要望などを分析し、個人株主と上場企業のコミュニケーションの円滑化図っていきます。

3. e-株主フェア

オンラインで実施する個人投資家向け会社説明会です。e-株主リサーチモニターを中心に来場案内を行いますので、投資経験豊富な個人投資家にアピールすることが可能です。また、会社説明閲覧後にはアンケートを実施しており、個人投資家のホットな声を直接聞くことができます。個人投資家コミュニケーションの場としてご活用いただけるサービスです。

NEWS RELEASE

2020年3月12日
株式会社 a2media



<株式会社 a2mediaについて>

会社概要

会社名：株式会社 a2media

URL：<https://www.a2media.co.jp/>

所在地：東京都中央区銀座6-10-1 GINZA SIX 12F

設立日：2002年8月8日

資本金：6,230万円

代表者：代表取締役社長 榑原 清孝

事業内容：I R企画・制作、株主通信・アニュアルレポート・統合報告書・会社案内作成、株主総会運営支援、展示会出展支援、I Rサイト・コーポレートサイト構築、映像メディア制作

事業概要：株式会社 a2mediaは、Enhanced IRを企業理念にI R活動を支援しています。Enhanced IRとは、さまざまなマーケティング手法を駆使し、I R活動の領域を広げることで、顧客企業の投資家を中心にステークホルダーへのプレゼンスを改善・向上していこうという考えです。

株式会社 a2mediaは、e-株主リサーチやe-株主モニターアンケートの結果などを多方面からの情報を連動させ、独自の知的アセットを構築し、市場の求めるメディアのあり方を模索していきます。



●本リリースに関するお問い合わせ先

メディアプロデュース1ユニット 大内泰輔

TEL：03-6779-9492（部門代表）

E-MAIL:taisuke.ouchi@a2media.co.jp

●e-株主リサーチに関するお問い合わせ先

e-株主リサーチ事務局 栗山博美

TEL：03-6779-9491（部門代表）

E-MAIL:hiromi.kuriyama@a2media.co.jp